

## 顧客重視で日本／東南ア拡充 中国船SITCの首脳陣が東京で会見

SITC International Holdings Co., Ltd.の楊現祥・最高経営責任者（CEO）ら同社首脳陣が7日、SITC Japan創立20周年記念パーティの後、東京で記者会見し、楊CEOは顧客志向のビジネスモデルを基礎に、日本顧客を重視し顧客のニーズに合わせ、日本／東南アジアを中心に拡充を図っていく考えを示したほか、タイ、ベトナムに続きフィリピン、インドネシアでも陸上物流事業の拡大に意欲をみせた。

楊CEOによるとSITCのコンテナ積み高は日中航路以

外のシェアが60%を占めており、今後もアジアにフォーカス、多頻度・網の目による安全、安定、安心のAAAサービスを提供、顧客ニーズを最優先した新サービスを開設、高速道路を整備すれば多くの車が走るようになるのと同じようにコスト高でも長い目でみれば貨物は増えると自信を示した。

その具体例として年明けの1月から日本とフィリピン・マレーシア・インドネシアを結ぶ新サービスを開始することを明らかにし

た。日本の寄港地など詳細は検討中だが、インドネシアのジャカルタ・スラバヤ・マカッサル、東マレーシアのピンツルへ日本から唯一の直行サービスを実施、フィリピンではマニラ・セブ・バタンガスに寄港、バタンガス向けも唯一のサービスになる。

また、Bangkokmax（バンコク港に入港可能な最大型）と呼ばれ、船首部分が剣（つるぎ）型をした独創的な設計の1,800 TEU型14隻シリーズはすでに12隻

が就航中で、残り2隻は日本市場を重視した"SITC Kanto"、"SITC Hanshin"と命名し来年には登場する。今後の新造船建造計画については検討中だが具体的には決まっていないという。

写真は左からSITC Container Linesの李翔生マーケティングセンター総経理、薛明元総裁、楊CEO、SITC JAPANの呂開献社長。

